

# 国語科における学びと教科の特質に応じ育まれる「見方・考え方」との関係性について（イメージ案）

平成28年4月20日  
教育課程部会  
国語ワーキンググループ  
資料2

（総則・評価特別部会資料より抜粋）

○「見方や考え方」とは、**様々な事象等を捉える各教科等ならではの視点や、各教科等ならではの思考の枠組み**であると考えられる。こうした「見方や考え方」と育成すべき資質・能力の関係について、以下のような整理ができるのではないか。

・「見方や考え方」は、知識・技能を構造化して身に付けていくために不可欠である。「見方や考え方」を働かせながら、知識・技能を習得したり、知識・技能を活用して探究したりすることにより、知識を他と関連づけて定着させたり、構造化された新たな知識として習得したり、技能を習熟・熟達させたりすることができる。

・「見方や考え方」が成長することにより、思考力・判断力・表現力が豊かなものとなり、より広い領域や複雑な事象をもとに思考・判断・表現できる力として育成されていく。

・学びに向かう力や人間性の育成には、どのような「見方や考え方」を通じて社会や世界にどのように関わるかという点が大きく作用している。

（どのような視点で捉えるか）  
言葉の働きを捉えること

言葉で表現されたもの  
言葉による表現そのもの

（どのような枠組みで思考するか）

国語で表現し理解すること（創造的・論理的思考の側面、感性・情緒の側面、他者とのコミュニケーションの側面）を通して、自分の思いや考えを形成し深めること＝資質・能力の思考力・判断力・表現力等

【国語科における学び】

国語で表現し理解することを通じて、言葉の働きを捉えるとともに、自分の思いや考えを形成し深めること

- ① 習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置きつつ、**深い学びの過程**が実現できているかどうか。

例えば・・・

- ・国語で表現し理解することを通じて、言葉の働きを捉えるとともに、自分の思いや考えを形成し深める学習活動にすること。

など

- ② 他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、**対話的な学びの過程**が実現できているかどうか。

例えば・・・

- ・子供同士、子供と教師、子供と地域の人や本の作者などとの対話が図られるような言語活動を行う学習場面を計画的に設けること。（※直接の話合い以外の対話も含む。）

など

- ③ 子供たちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、**主体的な学びの過程**が実現できているかどうか。

例えば・・・

- ・子供自身が、目的や必要性を意識して取り組める学習となるよう、学習の見通しを立てたり、振り返ったりする学習場面を計画的に設けること。
- ・子供たちの学ぶ意欲が高まるよう、実社会や実生活との関わりを重視した学習課題を設定すること。

など